

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	電気電子工学実験Ⅱ	
科目基礎情報						
科目番号	0036		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 3		
開設学科	創造工学科 (電気電子系共通科目)		対象学年	4		
開設期	通年		週時間数	3		
教科書/教材	【教科書】苫小牧高専創造工学科電気電子系編「電気電子工学実験Ⅱ 説明書」/【教材】堀重雄 著「電気実験・電子編 (改訂版)」電気学会, 電気学会通信教育会著「電気実験・機器電力編 (修正増補版)」電気学会, 木下是雄 著「理科系の作文技術」中公新書, Robert Barrass: Scientists Must Write(A Guide to Better Writing for Scientists, Engineers and Students), Falmer Pr					
担当教員	赤塚 元軌, 上田 茂太, 奥山 由, 工藤 彰洋, 佐々木 幸司, 佐沢 政樹, 奈須野 裕, 山田 昭弥, 堀 勝博					
到達目標						
1)これまで学んできた数学, 自然科学および工学の基礎知識を, 実験を通して深めるとともに, 報告書ではその知識を駆使してデータを正確に解析し, 論理的に説明することができる。 2)班のメンバーと協力し, 円滑かつ効率的な実験を行うことができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	座学で学んだ基礎知識と実験の関係を十分に理解している。	座学で学んだ基礎知識と実験の関係を理解している。	座学で学んだ基礎知識と実験の関係を理解していない。			
評価項目2	報告書において, データの正確な解析と論理的な説明が十分にできる。	報告書において, データの正確な解析と論理的な説明ができる。	データの正確な解析と論理的な説明ができず, 報告書を提出できない。			
評価項目3	班員と綿密に協力して, 円滑かつ効率的に実験を行うことができる。	班員と協力して, 円滑かつ効率的に実験を行うことができる。	班員と協力できず, 円滑かつ効率的に実験を行うことができない。			
学科の到達目標項目との関係						
Ⅰ 人間性 Ⅱ 実践性 Ⅲ 国際性						
教育方法等						
概要	電気・電子工学の各分野における基礎および応用的な実験を行うことにより, 講義で得た知識を高め, 実験に対する観察力と解析能力を養うことを目的とする。また, 実験機器, 計測機器の取扱い方について習熟するとともに諸量の数値的概念を会得し, 技術者としての常識を深める。					
授業の進め方・方法	クラスを7班に分けて原則1テーマ1班で行う。2または3テーマ毎に実験指導日を設け, 当該テーマの実験指導および評価を行う。また, 評価は各テーマで実験の態度10% (個人の実験態度, チームワーク), 実験の理解度・達成度20% (予習・事前の準備, 製作物の完成度。ただし, 評価方法は実験テーマ毎に異なるので, 詳細については担当教員の説明を受けること), 報告書70% (体裁, 結果の分析, 考察, 提出期限の厳守) で行い, 全テーマの評価点から総合的に判断したものを本科目の評価点とする。合格点は60点以上である。 なお諸事情により, 期間途中でやむなく遠隔授業対応となり, 対面での実験実施が困難となった場合, 対面授業再開時期を見て追実験を行うか, あるいは実施したテーマ数を考慮し評価方法を一部変更することもある。この場合の評価方法, 内容の変更については, 別途検討の上, 確定次第, 速やかに学生に周知する。					
注意点	関数電卓, テスター, 工具, グラフ用紙, 定規の他, 担当教員の指示による用具を用意する。 実験の円滑な実施のための事前学習, および実験後の報告書作成と作成に関する調査等をしっかり行うこと。 一部のテーマについては遠隔対応も可能であるが, 原則として対面で実施する。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1週	説明日	各テーマにおいて, どのような電気諸量の測定が必要か理解できる。			
	2週	シーケンス制御	シーケンス制御回路実習を實踐することができ, シーケンス図の読み方, 回路の組み方を理解できる。			
	3週	誘導電動機の試験と周波数制御	かご型および巻線型誘導電動機の負荷特性を理解する。各種試験による回路定数算定方法を習得する。また, インバータを使用した誘導機速度制御法を理解し, 実験することができる。			
	4週	照明工学実験	光度計を用いて白熱電球の光度を測定することができ, 配光曲線の作成方法を理解できる。			
	5週	レポート指導	報告書の体裁および内容について指導を受け, 報告書の作成方法を習得し, 当該テーマの理解を深める。			
	6週	高電圧工学実験	電極の形状によるギャップ長と放電電圧との関係を調べ, 高電圧試験法の基本を理解する。			
	7週	電子回路の製作実験やデータ処理演習1	電子回路の製作実験やデータ処理演習などを通して, ものづくりに必要な技能を習得する。			
	8週	レポート指導	報告書の体裁および内容について指導を受け, 報告書の作成方法を習得し, 当該テーマの理解を深める。			
	2ndQ	9週	トランジスタスイッチング回路	トランジスタを利用したスイッチング回路の動作を理解し実験することができる。デジタルオシロスコープ, デュアルトラッキング電源の使い方を習得する。		
		10週	低周波電圧増幅器	トランジスタ小信号低周波電圧増幅器 (エミッタ接地形抵抗・容量結合増幅回路) および負帰還増幅器の特性を理解し, 測定することができる。		
		11週	レポート指導	報告書の体裁および内容について指導を受け, 報告書の作成方法を習得し, 当該テーマの理解を深める。		

後期	3rdQ	12週	フリップ・フロップ	各種フリップ・フロップの実験をすることができ、順序回路の理解を深め、さらに応用方法について学ぶ。
		13週	電子回路の製作実験やデータ処理演習2	電子回路の製作実験やデータ処理演習などを通して、ものづくりに必要な技能を習得する。
		14週	レポート指導	報告書の体裁および内容について指導を受け、報告書の作成方法を習得し、当該テーマの理解を深める。
		15週	レポート指導	報告書の体裁および内容について指導を受け、報告書の作成方法を習得し、当該テーマの理解を深める。また、学期内の報告書提出を完了させる。
		16週		
	4thQ	1週	説明日	各テーマにおいて、どのような電気諸量の測定が必要か理解できる。
		2週	三相同期電動機の実験	三相同期電動機の始動方法を学び、位相特性および負荷特性の実験ができる。
		3週	三相同期発電機の実験	三相同期発電機の各試験を実施することができ、短絡比の求め方を学び、電圧変動率についての知識を深める。
		4週	継電器の実験	電力用継電器の動作原理と取扱い方を理解し、実験することができる。
		5週	レポート指導	報告書の体裁および内容について指導を受け、報告書の作成方法を習得し、当該テーマの理解を深める。
		6週	変調・復調回路	変調・復調回路の原理を理解し、実験することができる。
		7週	電子回路の製作実験やデータ処理演習3	電子回路の製作実験やデータ処理演習などを通して、ものづくりに必要な技能を習得する。
		8週	レポート指導	報告書の体裁および内容について指導を受け、報告書の作成方法を習得し、当該テーマの理解を深める。
		9週	オペアンプ	IC演算増幅器（オペアンプ）の使い方を学び、増幅回路の原理および特性を理解し、実験することができる。
		10週	電界効果トランジスタ（FET）	電界効果トランジスタの静特性と諸パラメータを求めることができ、その動作を理解する。
		11週	レポート指導	報告書の体裁および内容について指導を受け、報告書の作成方法を習得し、当該テーマの理解を深める。
12週	AD変換の原理	逐次変換アルゴリズムを使ってAD変換器を構成し、その動作原理について理解を深めるとともに実験することができる。		
13週	電子回路の製作実験やデータ処理演習4	電子回路の製作実験やデータ処理演習などを通して、ものづくりに必要な技能を習得する。		
14週	レポート指導	報告書の体裁および内容について指導を受け、報告書の作成方法を習得し、当該テーマの理解を深める。		
15週	レポート指導	報告書の体裁および内容について指導を受け、報告書の作成方法を習得し、当該テーマの理解を深める。また、学期内の報告書提出を完了させる。		
16週				

#### 評価割合

	実験態度	実験の理解度・達成度	報告書	合計
総合評価割合	10	20	70	100
評価項目1	0	20	0	20
評価項目2	0	0	70	70
評価項目3	10	0	0	10